



地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり事業

沖縄・奄美エリア

マスタープラン

2024年2月
沖縄・奄美 共同検討委員会

1. マスタープランの意義

沖縄・奄美の経済社会や歴史的背景と文化・自然資源の世界的価値、沖縄・奄美の連携の意義、重要性に触れながら、これからの観光の役割と意義を述べる。

観光は、（観光立国推進基本法前文にあるとおり）国際相互理解の増進と恒久平和の実現に寄与し、潤いのある豊かな生活価値の創造のほか、雇用の創出、地域経済の活性化など地域経済のあらゆる領域においてその発展に寄与することで、地域生活の安定向上に貢献するためのものである。

特に高付加価値インバウンド旅行者（以下「高付加価値旅行者」）は、単に旅行消費額が大きいのみならず、一般的に知的好奇心や探求心が強く、旅行による様々な体験を通じて地域の伝統・文化、自然等に触れることで、自身の知識を深め、インスピレーションを得ることを重視する傾向にある。そのため、高付加価値旅行者の誘致には、地域の自然・文化・産業等の維持・発展への貢献、提供サービスの価値向上による雇用の確保・所得の増加・域内経済循環の向上等の効果が期待される。また、これと連動して、地域経済のあらゆる側面にその便益がもたらされ観光が長年の経済社会的課題の解決の一助となるよう、産業構造上の課題解決に資する官民の事業を一体的に設計し、その実現を進めるべきと考える。

沖縄と奄美群島は、世界の中での地政学的ポジション、地理・自然・歴史・文化などのつながりに加え、2021年7月に世界自然遺産に登録された生物・地域社会の多様性などの観点から、深い関連を有する。

これらを踏まえれば、両地域の交流と連携を官民で促進し、高い経済的付加価値を伴って、地域に永く引き継がれた文化・環境・社会の価値を生みだし、地域と世界との間で人と経済、価値が循環し続ける、心豊かな関係性と持続可能な共生・循環型の地域経済社会を再構築することは、沖縄県及び鹿児島県の両県のみならず、世界の中での日本の価値をけん引する上でも、重要な役割を担うと思われる。

よって、沖縄県及び鹿児島県奄美群島により構成される本エリアでは、高付加価値旅行者の獲得により、住民・観光客・観光業従事者が、自然・歴史・文化を尊重し、それぞれの満足度を高めるとともに、環境容量の範囲において観光産業の成長と維持を図り、地域経済を活性化させることを目指し、観光地域づくりの指針となるマスタープランを策定するものとする。

今後の本エリアによる観光地域づくりは、観光庁・両県・エリア内市町村の協力のもと、本マスタープランに基づき行うこととし、沖縄及び奄美群島の官民連携協議会がエリア内のソフト・ハード両面におけるクオリティコントロールを担う。

なお、本マスタープランは、「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」「第6次沖縄県観光振興基本計画」及び「かごしま未来創造ビジョン」「第三期鹿児島県観光振興基本方針」「奄美群島成長戦略ビジョン2033」の取組を加速させるものであり、取組の進捗等に応じて随時見直し・充実を図るものとする。

2. マスタープランの策定主体

沖縄県、沖縄振興開発金融公庫、内閣府沖縄総合事務局、鹿児島県、国土交通省九州運輸局により構成する「検討委員会」を設置し、双方の合意のもと策定する。

なお次年度は沖縄、奄美それぞれ官民連携協議会を設置、相互連携しながら事業推進を行う。（詳細P.28）

地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり事業

沖縄・奄美 共同検討委員会

- ・ 沖縄県
- ・ 沖縄振興開発金融公庫
- ・ 内閣府沖縄総合事務局
- ・ 鹿児島県
- ・ 九州運輸局

※今後必要に応じて、民間事業者等、地域関係者参加予定

3. 将来像と成果目標

(1) 地域全体の成果指標

沖縄

- ・ 県民の幸せ感 **90%**
- ・ 観光事業者の満足度 **80%**
- ・ 観光客の満足度 **80%**

奄美

- ・ 住民の意識
観光に対する住民意識調査で、観光の発展に伴い生活が「良くなった」と回答した割合
- ・ 観光従事者の満足度
観光従事者満足度調査で、仕事全般的な満足度が「10段階評価のうち上位3段階」を選択した割合
- ・ 観光客の満足度
奄美群島観光振興基礎調査で、旅行全体の満足度が「大変満足」と回答した割合

※各指標における具体的な目標数値については、次年度以降の事業において設定する。

(2) 観光産業の成果指標

- ・ 観光収入 **1.2** 兆円

上記目標の早期達成を目指す

- ・ 観光客一人当たり消費額

令和4年 奄美群島 68,975円

令和15年目標値 奄美群島 **100,000円**

※上記すべて沖縄県第6次観光振興基本計画 令和13年度目標

3. 将来像と成果目標

(3) 地域全体の目指すべき姿

沖縄

「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」（沖縄振興計画令和4年度～令和13年度）では、**安全・安心で幸福が実感できる島**、世界から選ばれる誇りある持続可能な観光経済と地域社会の実現を目指し、観光の量から質への転換、経済・社会・環境の好循環等を図ることとしている。

1. 平和で生き生きと暮らせる

「誰一人取り残すことのない優しい社会」の形成

2. 世界とつながり時代を切り拓く

「強くしなやかな自立型経済」の構築

3. 人々を惹きつけソフトパワーを具現化する

「持続可能な海洋島しょ圏」の形成

また「沖縄21世紀ビジョン」に掲げる5つの将来像の実現と固有課題の解決を図るため、以下の基本施策を推進している。

1. 沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島
2. 心豊かで、安全・安心に暮らせる島
3. 希望と活力にあふれる豊かな島
4. 世界に開かれた交流と共生の島
5. 多様な能力を発揮し、未来を拓く島

奄美

「かごしま未来創造ビジョン」では、鹿児島を目指す姿を「誰もが安心して暮らし、活躍できる鹿児島」とし、以下の3つに取り組み、これらの好循環を生み出すことで、目指す姿を実現することとしている。

1. 未来を拓く人づくり

2. 暮らしやすい社会づくり

3. 活力ある産業づくり

また、目指す姿の実現のために整理した15の施策展開の基本方向の中で、多様で魅力ある奄美・離島の振興を掲げ、以下3つの項目に沿った施策を展開している。

1. 島々の魅力を生かした奄美・離島の振興

2. 世界自然遺産の保全と持続可能な観光の推進

3. 離島の交通ネットワークの形成

また「奄美群島成長戦略ビジョン2033」では、3つの柱（つなぐ宝、稼ぐ力、支える基盤）を基軸として、自然と文化を守り受け継ぐとともに、仕事の創出に重点を置いた産業振興を目指すことを基本理念とし、目指す将来像として、以下の3つを掲げている。

1. 若者がチャレンジし、夢を実現する島

2. 宝を守り、受け継ぎ、世界の人々と共有する島

3. 全ての「島ちゅ」が主人公として活躍する島

3. 将来像と成果目標

(4) 観光産業の目指すべき姿

沖縄

沖縄県では、「第6次沖縄県観光振興基本計画」において、社会、経済、環境の三側面において調和が取れた沖縄観光の実現のため「持続可能な観光地域づくりの追求」に取り組んでいる。

県民、観光客、観光事業者が、自然、歴史、文化を尊重しそれぞれの満足度を高めるとともに環境容量の範囲において観光産業の成長と維持を目指すことで沖縄経済を最適に活性化させるため、社会、経済、環境の3つの視点から目標値を定め、以下の**基本施策**を推進している。

1. 安全・安心・快適でSDGsに適応した観光地マネジメント
2. 多彩かつ質の高い観光に向けたDXの推進
3. 沖縄のソフトパワーを生かしたツーリズムの推進
4. 基盤となる旅行環境の整備
5. 脱炭素・グリーンリカバリーへの積極的な対応
6. 人材育成と人材確保の推進

奄美

鹿児島県では、「第三期鹿児島県観光振興基本方針」において、「来て、見て、感動、世界を魅了する観光王国 “KAGOSHIMA”づくり」を基本目標として掲げている。

具体的には、奄美群島地域の特性を踏まえ、世界自然遺産としての価値を有する貴重な動植物や海洋レクリエーション、島唄をはじめとする特色ある多様で豊かな自然と個性的な文化を生かした体験・滞在型観光等を推進し、沖縄県等との連携による世界自然遺産登録に向けた取組の中で、自然遊歩道等の整備など、人と自然環境が共生する癒やしあふれる観光地づくりを推進することとしている。

奄美群島広域事務組合と（一社）奄美群島観光物産協会（ぐーんと奄美）が連携して群島全体で取り組むことで効率化や相乗効果を図ることのできる**施策**を「群島全体での取組」として下記6つの方向性を策定。

1. 奄美群島の地域ブランディングの強化
2. 奄美の地域資源や観光拠点の魅力の向上
3. 既存組織の体制整備や魅力的な人材の発掘・育成
4. 観光の現状分析のための情報収集と成果の活用
5. 奄美群島内外の移動の利便性向上
6. 隣接地域との連携の強化

4. デスティネーションブランディング

(1) 滞在価値（コアバリュー素案）

自然（島の海、川、森、生き物）、歴史（島の伝統、芸能、歴史文化）、文化（島の人、催事、食）など八重山諸島から奄美群島まで多様性を有し、日本の原点、本質的価値を現すものとして美しいグラデーションを魅せる。さらに「命や精神の再生～自分を取り戻す、自分に還る旅」を通じ、地域に永く引き継がれた固有の精神性、すべての生命の調和・再生を現す生き方や環境に触れ、生命や身体が持つ力を引き出す。

特徴①

世界有数のブルーゾーン・命と精神を再生する、究極のガストロノミー・ウェルネス。

特徴②

国際交易・交流や自然に育まれた、高い精神性（宗教観、死生観）。
命の再生・循環の中にある、生き方と風景。

特徴③

暮らしと共にある森と海。世界的生物多様性のスポットの中でも、多くの固有種や絶滅危惧種が生息。

(2) コアゾーン

奄美大島、徳之島、やんばる、沖縄本島南部、宮古、八重山などを念頭に、今後、協議会及び地域関係者と協議。
沖縄・奄美をリードするコアゾーンの形成を進める。

4. デスティネーションブランディング

(3) ウリ (戦略素材)

① 精神性

- ア. 御嶽や聖域
- イ. グスク及び関連遺産群
- ウ. 各区固有の伝統祭祀
- エ. 沖縄空手

② アドベンチャーツーリズム

③ 民藝・アートなど

④ 無形文化

- ア. 琉球舞踊
- イ. 組踊
- ウ. 三線、琉球古典音楽
- エ. 島唄
- オ. 八月踊り

⑤ 食文化・ガストロノミー

(4) ターゲット層

欧米層のモダンラグジュアリー層を想定。



5. 高付加価値旅行者の誘致に向けた課題と取組の方向性

(1) 基本課題・施策

・ 安全・安心・快適で SDGs に適応した観光地マネジメント

想定外の危機に備えた危機管理体制を強化し、安全・安心で快適な観光の実現に取り組む。また、特定の地域や時期、時間帯に多くの旅行者が訪れることで生じる自然環境や住民生活への影響等の諸問題である、いわゆるオーバーツーリズムに対しては、各地域で自然環境の保全、地域の文化・生活環境の尊重を要件とする観光地マネジメントに取り組み、旅行者・観光客と地域・住民が価値を共有するサステナブル（持続可能）／レスポンシブル（責任ある）／ユニバーサル（誰もが楽しめる）ツーリズムの推進に取り組む。さらに、安定的な財源の確保と新たな推進体制の構築にも取り組む。

・ 多彩かつ質の高い観光に向けた DX の推進

世界水準の観光地の形成に向けては観光の質の向上を図る必要があるため、適切な消費者調査を通して消費額向上が見込めるターゲット市場における消費者の理解を深め、マーケティング戦略を立案し、多様なニーズへの対応、高付加価値な観光、観光消費額の向上、良質な観光客のプロモーション施策など一気通貫での沖縄ブランドの強化を進める。

また、ICT等の活用や観光DXの促進を図り、島しょ県としての特性・優位性も活かしながら産業としての競争力を強化し、根拠に基づいた効率的なプロモーションを図る。

・ 沖縄のソフトパワーを生かしたツーリズムの推進

沖縄が持つ独自の自然環境、文化・伝統・芸能、空手・スポーツ、健康・長寿等のソフトパワーを生かした付加価値の高いツーリズムを展開し、経済効果の検証を図りながら必要に応じて民間活力も活用しつつ体験価値の向上を図り、観光需要の平準化につなげる。また、MICEの振興により沖縄観光にビジネスツーリズムという新機軸を打ち出し、各種施策を戦略的に推進する。

・ 基盤となる旅行環境の整備

観光客が安全・安心・快適に旅行を行うための基盤となる、航空ネットワーク、航路ネットワークの拡充、観光の二次交通結節点の整備を引き続き行うとともに、客層客室タイプ別の宿泊施設調査や情報インフラの整備拡充、観光地としての景観形成等を図る。

・ 脱炭素・グリーンリカバリーへの積極的な対応

国際的に取組が求められている脱炭素社会の実現に向けて取り組むことは非常に意義深いことであり、国内外の市場に向けて沖縄観光の姿勢を示すため、食品リサイクルの推進（ホテル・飲食店等における食品ロス）、観光サービス提供時における代替プラスチック製品の積極的な利用や自然素材への転換などを通じて、廃棄物の削減及び脱プラスチック社会の実現に向けての取組を促進していく。また、運輸部門、宿泊施設、観光施設の脱炭素化に向けての取組も促進していく。

・ 人材育成と人材確保の推進

コロナ禍の影響により経済活動が縮小された観光産業への人手不足の解消に向け、観光従事者の対応力の向上や高度経営人材の育成、大学等と連携した人材育成カリキュラムの構築やインターンシップ制度の充実などを行い、新たな人材の確保、後継者の育成を図る。また、観光産業従事者の社会的な地位向上に向けて、観光産業の雇用環境の改善と安定的に質の高い雇用の確保が可能となる体制の構築を図る。

(1) 基本課題・施策

・ 奄美群島の地域ブランディングの強化

【1-1 奄美群島の観光施策の方向性の設定】 【1-2 観光資源の利活用の適正化】 【1-3 観光関連産業と他産業との連携】 【1-4 観光プログラムの開発】 【1-5 情報発信】
奄美群島において観光を推進するにあたり、変化する社会状況を的確に捉え、島民の暮らしと観光のバランスに配慮しながら持続可能な観光地域づくりに取組みます。奄美群島の各島の個性を尊重して奄美群島全体で奄美らしさを考え続けることで、「奄美群島」としての地域ブランディングを確立し、観光プログラムの造成や情報発信など総合的に取組みます。

・ 奄美の地域資源や観光拠点の魅力の向上

【2-1 地域資源の保全・活用】 【2-2 観光拠点や関連施設の整備】 【2-3 奄美らしい景観の保全・活用】
奄美群島における観光資源には自然環境だけでなく、地域の歴史文化や集落の景観、人々の生活文化など多様なもので構成されます。また、空港やフェリーターミナルなどの交通拠点施設や主要な観光関連施設、宿泊施設等も、旅行者にとって滞在中の大切な場所となります。これらの観光資源や施設について、魅力や利便性を高めるための取組を進めます。

・ 既存組織の体制整備や魅力的な人材の発掘・育成

【3-1 観光推進団体の体制の強化や観光関係者との連携】 【3-2 観光に携わる人材の育成や連携の強化】 【3-3 観光関連産業の質の向上】
奄美群島全体で観光施策を着実に進めるため、（一社）奄美群島観光物産協会を中心とした各島の観光推進団体の体制や人材を充実します。さらに、観光関連業の収益向上や従事者の雇用環境の改善を進め産業として発展させるとともに、島民全員で観光に関心を持てるような意識づくりに取組みます。

・ 観光の現状分析のための情報収集と成果の活用

既存の調査を活用・発展しながら奄美群島内で統一されたデータ収集やアンケート調査を実施し、よりの確に奄美群島における観光の動向を把握し、観光施策の検討に活用します。得られたデータについては、各自治体や観光推進団体だけでなく、宿泊事業者等の民間の観光関連事業者が自らの事業展開で活用できるようにフィードバックし、使いやすいシステムの構築や分析のためサポートに取組みます。

・ 奄美群島内外の移動の利便性向上

陸路で移動することができない奄美群島への交通手段を維持するため、一次交通である航空路線やフェリー航路への観光利用を促進して利用者を確保します。島内においては、交通事業者と協力しながら旅行者の二次交通や三次交通の移動手段を確保し、島民にとって生活するうえで必要になる路線バス等の公共交通の利便性を高めます。

・ 隣接地域との連携の強化

奄美群島は、観光地として国内有数の人気を誇る沖縄県や屋久島に隣接し、沖縄県北部及び西表島と一体的に世界自然遺産に登録されています。魅力的な地域に囲まれた奄美群島の立地を生かして、各地域の自然環境や歴史的背景と紐づけながら、隣接地域と連携しながら観光施策に取り組むことでより付加価値の高い観光へと展開します。

6. 次年度以降の地域経営主体について

沖縄

年度によって規模が変動する県及び市町村等の観光予算に依らず安定的かつ持続的に観光振興及び自然環境・文化などの地域資源・資産の保全・再生を図ることを目的とした新税等の導入について、関係団体等と意見交換を行いながら取組を進める。

また、圏域間の連携によるテーマ別施策展開を図るため、市町村、観光地域づくり法人（DMO）及び観光関連団体等と定期的に情報共有を図る。

職員の異動等によって行政ノウハウ・知見及び業界、関係機関等との連携が積み上げ式に蓄積されないことを避けるため、専任の職員・専門人材が継続して働き、政策面及び業界・関係機関との連携に貢献できる体制・仕組みづくりを検討する。

加えて、県と（一財）沖縄観光コンベンションビューローと民間の連携を強化し、観光統計調査・分析機能を推進し、マーケティングを主軸とした取り組みを強化する。

観光振興を目的とする新税等の導入 / 持続可能な観光振興施策の展開 / 新たな分析・政策立案体制等の設置検討

奄美

奄美群島振興開発計画改定の方向性、鹿児島及び沖縄での官民における協議の進捗等を踏まえ、これらに沿って将来構想を具体化、推進体制を検討していく。

沖縄及び奄美の官民連携協議会において、相互連携しながら、今後、関連基本計画の更なる加速に必要となる民間の主導的役割の発揮、地域経営戦略、推進すべき具体の基幹事業を協議し、事業推進や体制強化のあり方などの検討、必要な政策提案、事業化等を進める。

また「沖縄と奄美群島との交流の拡大にかかる連携協定」に基づき、

①往來の円滑化 ②観光振興 ③農林水産物などの輸送の円滑化 ④自然環境の保全と再生 ⑤青少年の交流 などに協力して取り組む。

2024年度（R6年度）

2025～26年度（R7～8年度）

2027年度（R9年度）以降

新・沖縄21世紀ビジョン基本計画及び第6次観光振興基本計画（R4～R13）

第6次沖縄県観光振興基本計画ロードマップ（前期：R4～R6）

第6次観光振興基本計画ロードマップ（中期：R7～9）

基本施策

ウリ・コネ

① 安全・安心・快適でSDGsに適応した観光地マネジメント

- ・危機管理体制見直し・強化
- ・県民生活・社会と調和のとれた観光振興の実現
- ・サステナブルツーリズムの推進
- ・レスポンシブルツーリズムの推進
- ・ユニバーサルツーリズムの推進
- ・安定的な財源の確保と推進体制の構築

② 多彩かつ質の高い観光に向けたDXの推進

- ・ターゲットマーケティングと効率的なプロモーションの実施
- ・デジタル化、観光DX、ICTの活用による利便性の向上
- ・外国人観光客への対応強化（多様性への対応、相談体制、多言語対応など）
- ・観光収入の確保と経済効果の発揮

③ 沖縄のソフトパワーを生かしたツーリズムの推進

- ・自然を活用したツーリズムの推進
- ・文化・伝統・芸能を活用したツーリズムの推進
- ・地元の食材等を活用した食と土産品の品質向上
- ・マリンタウンMICEエリアの形成を核とした戦略的なMICEの振興
- ・空手、スポーツ及び沖縄の温暖な気候を活用したツーリズム、ウェルネスツーリズムの推進
- ・質の高いクルーズ観光の推進 など

ヤド・マチ

④ 基盤となる旅行環境の整備

- ・空港、港湾、二次交通、宿泊施設、拠点整備、沖縄らしい風景づくりの推進

ヒト

⑤ 人材育成と人材確保の推進

- ・質の高いサービスを提供できる観光人材の育成・確保、雇用環境の改善

アシ

⑥ 脱炭素・グリーンリカバリーへの積極的な対応

- ・食品ロス削減、脱プラスチック、カーボンオフセット、カーボンニュートラルの推進

ロードマップの役割と
その達成イメージ

全施策のKPIの達成など施策の評価・検証、実績の公表、県民意識・社会経済情勢・県民ニーズの変化把握・反映など、PDCAサイクルを実施しながら、ロードマップを改定。

目指す将来像に向けた消費単価の向上、滞在日数の延伸、食・交通・宿泊の満足度の向上、沖縄でしか味わえない歴史文化の体験、付加価値の高い観光商品造成や観光客の受け入れ、人材の育成・確保などに対応するための更なる取組と関係者の責任・役割を示し、県民をはじめとした多様な主体の参画と協働を促す。

更なる加速のための追加施策

本件協議会や関連する協議会において、沖縄振興の成果と残課題を踏まえた関連基本計画の更なる加速に必要な民間の主導的役割の発揮、地域経営戦略、推進すべき具体の基幹事業を協議し、事業推進や体制強化のあり方などの検討、必要な政策提案（「第6次沖縄県観光振興基本計画」ロードマップ（中期）への反映など含む）、基幹事業の事業化等を進める。

- ・域内・域外との好循環創出による移出・移入インバランスの是正、高付加価値型経済・社会への転換のため必要となる戦略や方策の分析
- ・共有された戦略をけん引する基幹事業の創造とその基盤となる環境整備（インフラや制度環境、推進のための体制、人材成長の場の創出と人材確保など）
- ・沖縄に住まう価値を高めるためのライフスタイル、将来都市文化の創造 など

上記取組を更に加速するため、ロードマップに基づく各主体のアクション、事業化を不断に検討、推進。

7. ロードマップ【奄美】

